

【各選定委員よりの講評】

委員 小野田泰明

短い期間でしたが、精緻に条件を読み取り、魅力的な提案を提示して頂いた各建築設計事務所の皆さんには、最大限の敬意を表したいと思います。その歴史的経緯から、些少な経費すら支払うことが難しくなっている日本のプロポーザルは、皆さんのボランタリーな努力によって維持されているといっても過言ではありません。こうした構造は、今後改善していく必要はありますが、ひとまずは皆様のお力添えに感謝申し上げたいと思います。

今回の応募作品は、25 作品と、数からするとそう多くないものの、非常にレベルの高いもので、その審査は厳しいものとなりました。

具体的には、基本構想や要綱に示されているように、川まちとしての発展の出発点となった旧市街、復興の中で大きな発展を遂げつつある IC 近くの新市街に次ぐ、文化・スポーツの拠点としてのこの場所を将来に向けて如何に位置付けていくのかという点が、まず問われたように思います。

それゆえに、交通の不便さを跳ね返し、自然豊かで、のびのびとした空間性をどのように取り込んでいくのかという提案性、複合文化施設としての機能の基本的な整合性、そのあたりをクリアした提案が、二次に審査に進むことになったようです。

二次審査では、上記項目がさらに精査されるとともに、ポスト復興を視野に入れて、交流人口にもアピールできるオリジナリティを持っているか、敷地の持つ地盤条件や復興時における発注状況などを勘案した理的なコストコントロールが可能かどうかなどについて真剣に議論されました。

特に最後の提案の現実性については、難しい条件の中、どの案を選んでも、設計者と踏み込んだ再整理が必要であり、そのためには基本構想に盛り込まれている条件についても勇気をもって踏み込まざるを得ないと見えています。

以上を踏まえた厳正な審査の結果、1 4 2 2 が選ばれることになりました。上記の条件を満たした魅力的提案ではありますが、機能的に見た時の空間の寸法体系の調整、大ホール催事時のホワイエ空間における現実的人の捌き、長い共有空間の使われ方の精査、S 造で懸念が残る音の処理の問題の調整、屋根部の雨仕舞等止水関係、コストや性能の管理能力、など課題も何点か指摘されています。

この設計者が今後、真摯に市民や市当局と議論を重ね、優れた文化拠点の実現に汗をかいてくれることを強く願います。被災地のみなさんを失望させること無く事業を貫徹する、その責任は重大です。

委員 有川幾夫

ホール、博物館、生涯学習施設という機能を複合させるメリットは、多様な利用目的による施設の活性化とともに、例えば研修室や小ホールでも展示を可能とするなど、利用のタイミングに応じて諸室を重複して活用し、コンパクトで柔軟性が高く、維持しやすい施設を実現させることであろう。

そこで私は博物館機能のレイアウトに加えて、各機能を横断して想定された展示併用スペースの連携と集約について検討することを自分に与えられた課題と認識し、その手がかりとして、特に市民ギャラリーの拡張性に着目した。

最優秀者案では市民ギャラリーは博物館の企画展示室と隣接し、小ホールとも連携しやすい位置にある。これによって市美術展や文化協会展、巡回展といった比較的規模の大きな展示に対応しやすく、他方で企画展の規模の自由度も高まる。加えて企画展示室と常設展示室に融通性があることも好ましい。また搬出入経路、および空調や警備システムの系統がシンプルになる点も重視した。

建物全体については、駐車場が住宅地と直ちに接しないこと、大ホールが住宅地から離されていること、屋根の高さが住宅地に近いほど低くなっていることを評価した。

次点案は市民ギャラリー（1 階）と博物館機能（2,3 階）がともに建物西側に配置されている。そこで、これらに伴う展示空間を垂直方向に、分かりやすく、かつ融通しやすく展開できないか、そんな期待を抱かせた。

委員会の議論を通じて、いずれの案にも熱意ある有意義な提案を見出すことができた。今後のプロセスを経て、市民に愛され誇りとされる文化拠点が姿を現す日を心待ちにしている。

委員 大石時雄

多数の技術提案があった。いずれも、素晴らしいプランだった。東日本大震災に遭い、大きな被害を受けた石巻市。そこから立ち直ろうとする市と住民にとって、文化施設が持つ力とは何か、文化施設に何ができるのか。そのことを意識せざるを得ないなかで、提案者の想い、思想や哲学が提案に盛り込まれていた。そのように、ぼくは感じた。

一次審査を通過し、二次審査に進んだのは5つ。二次審査では、大勢の見学者が見守るなかで、提案者から直にプレゼンテーションを受けた。審査・選定委員からの質問に対し、丁寧に、誠実に答えていただいた。見学者の皆さんには、提案者と審査委員の双方の「こだわり」がどこにあるか、感じていただけたのではないだろうか。

5 提案ともそれぞれに特徴と魅力がある。施設のホール部分、展示部分、交流スペース、施設の外観、それと建築技術と予算面において。こちらを採れば、あちらが「もったいない」。ああ、何とかしてくれ。正直、そう思った。

議論の末、最優秀に選ばれた提案は、建築技術的に難しさがあるのではないかと、という意見もあった。けれども、困難を乗り越えてこそ、大きな希望がその先にある。今なお大きな困難に立ち向かっている石巻市と住民にとって、それこそ相応しいプランではないか。ぼくはそう思う

委員 藤沼邦彦

感想：多数の応募があり、それぞれ個性的な技術提案書が提出され、興味深く拝見した。

優劣を判断するのは難しかった。1 次審査で選ばれた 5 点の技術提案書は、自分でも良いと感じたものが大部分であったので、安心した。

基準：本杉委員長・小野田委員の説明を参考に、博物館学的な立場から自分なりの基準をいくつか考えた。

①安全性

- ・150 年に一度の出水の可能性のある場所という。国宝・重要文化財などを展示できるのか、不安である。博物館施設は出来れば2階が望ましいと思った。

②施設を取り巻く歴史的環境

- ・国史跡沼津貝塚などの史跡や景勝地に恵まれ、義経・貞任伝説も濃厚である。

環境と施設の結びつきを期待したが、運営の問題かも知れない。

③博物館機能の利便性

・展示室(常設・企画展示室)、収蔵庫、資料整理・研究室、学芸員室、資料の搬入口などの利便性を考えた。

④建築の美しさ

・大地震・津波からの復興を象徴する建築物と考え、奇抜なもの・斬新なものより安定した美しさをもつ建物が良いと思った。

選定：以上のことから、最優秀者【1422】と優秀者【1413】の選定は妥当なものと、自分なりに思っている。

委員 西條允敏

各社、このたびのプロポーザルにご参加いただきましたこと、感謝申し上げます。

石巻市複合文化施設整備市民懇談会並びに同調整会議を軸にまとめられた石巻市複合文化施設基本計画に基づき、種々ご提案を頂きました。

厳しい敷地の中、駐車台数が満たされなかったり、小分けされ利用しにくいところも見うけられました。

大・小ホールや博物館、展示室のゾーニングに苦勞が見られました。

収蔵品や装置関係等の搬入口と仕分けスペースは、それぞれ苦勞されたと思われます。

大ホールの舞台について、袖舞台の狭いところが見受けられました。

大・小ホールの関係において、兼用スペースとなる楽屋、練習室や研修室の配置に配慮工夫が欲しいところもありました。

市民ギャラリー、研修室、和室、創作室等の日常市民が多く使うスペースにも工夫があればと感じました。

今回の設計提案において各社中庭やパフォーマンススペースを考えており、決定後の利用方法等やそれにふさわしい設え等検討する中から、どんなものが出来上がるかのしみです。

委員 境 直彦

発注者側を代表し、委員として本プロポーザル選定委員会に参加させていただきました。

複合文化施設は、市民の文化芸術活動の拠点であり、被災地石巻の復興のシンボルとなる施設で、市をあげて建設を推進しております。本杉委員長をはじめ、選定委員をお願いした皆様には、このような状況を踏まえ、より良い施設を造り上げたいという熱意をもって臨んでいただき、初回会議の実施要領の検討から白熱した議論が交わされました。

応募していただいた25者の提案は、課題に対する考え方や配置、デザインなど、それぞれに特徴があってよく考えられており、審査の過程でどれを残すか選択するのが困難であり、最優秀者と優秀者に選ばれた案以外についても、すばらしい内容の提案が多かったと感じられました。

公開で行われたプレゼンテーション・ヒアリングには、市民の方々も多数お見えになり、関心の高さが伺えました。

皆様には、今後の事業推進に向けなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます